

愛南町の高校生 東日本大震災で被災した小学校を訪問

01月20日 12時50分



愛南町の高校生が東日本大震災で多くの子どもが犠牲になった宮城県石巻市の大川小学校を訪れ津波によって次女を亡くした男性から防災の大切さを学びました。

愛南町の県立南宇和高校では、南海トラフの巨大地震を想定した防災教育を進めていて、19日は、2年生の3人が東日本大震災で児童と教職員あわせて84人が犠牲となった宮城県石巻市

の大川小学校を訪れました。

大川小学校は震災遺構として被災当時のまま保存されていて、高校生たちは校舎の前で手を合わせて黙とうをささげたあと、当時6年生だった次女を亡くし、現在も語り部活動を続ける佐藤敏郎さんの案内で校舎を見学しました。

佐藤さんは「避難場所があるだけでは命は救われません。避難場所に逃げるという行動があって、初めて命が救われる」と語りかけ、事前に決めた避難場所に必ず逃げるということを忘れないで欲しいと訴えていました。

現地を訪れた高校生の1人、山崎成美さんは「被災地がかわいそうだという言葉で終わらせるのではなくここで学んだことを南海トラフ巨大地震への備えに生かし、命を守る対策を考えたいです」と話していました。